

3月10日のウクライナ情報

安齋育郎

●スイス大統領、ウクライナ向け武器再輸出に反対

【AFP＝時事】永世中立国スイスのアラン・ベルセ大統領は 7 日、第三国に輸出した同国製兵器のウクライナ向け再輸出を認めない方針を維持すると表明した。国連の会合に出席した際、記者団の取材に応じた。

ベルセ氏は、兵器の再輸出は法的に「不可能だ」と言明。「政府や連邦議会は法的枠組みを維持すべきであり、その枠組み内で対応したいと考えている」と語った。

スイスは、ウクライナとその支援国から圧力を受けているが、第三国が保有するスイス製兵器のウクライナ向け再輸出を認めていない。これまでにドイツやスペイン、デンマークから正式要請があった。

議会では再輸出規制の緩和に向けた協議が行われているが、何らかの決定がなされるのは数か月先の見通し。(c)AFP



●「ノルドストリーム」爆破テロは親ウクライナ派組織の犯行か＝米紙報道(2023年3月8日) 珍奇珍奇!

2022年9月に起こったロシアからドイツ・欧州に天然ガスを送る海底パイプライン「ノルドストリーム」の爆破テロは、何らかの親ウクライナ派組織が実行した可能性がある。米政府高官が明かした新しい諜報データの内容をもとに、米紙「ニューヨーク・タイムズ」が伝えている。

同紙によると、ノルドストリームの爆破テロは「ウラジーミル・プーチンの敵」が行ったという。どういった組織か、指導者が誰かなどについては全く触れられていない。また、ウクライナ政府がテロを実行した組織と非公式に接触していた可能性も否定はできないとしている。

また、犯行に使われた爆発物は「軍や特殊部隊とは関係のない熟練のダイバーら」によって設置されたようだとしている。一方で、政府高官はロシアが事件に関与したという証拠は何も見つからなかったと指摘。また、「英国人や米国人も関与していない」と主張している。

米政府高官はこの諜報データがこういった経緯で集められたか、その詳細や証拠については明らかにしなかったという。

記事ではウクライナ政府の関与がいかなる形でも認められることになれば、ドイツとの二国間関係に影響を及ぼし、ドイツからの支援を失う可能性があるという指摘されている。

一方でドイツ紙「Die Zeit」は7日、独捜査当局が「ノルドストリーム」爆破テロに関与した疑いのある船を特定したと伝えた。この船はウクライナ人2人が所有する、ポーランドに拠点を置く会社からレンタルされたものだったという。

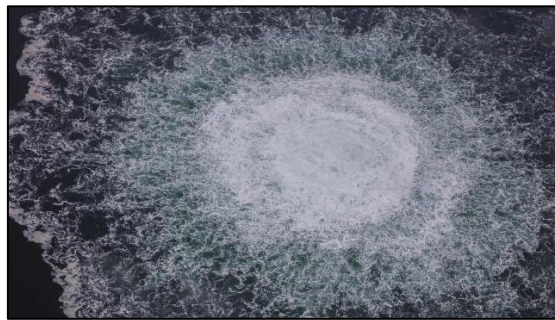
同紙によると、パイプラインに爆弾を設置した実行犯グループは 6 人で、内訳は男 5 人と女 1 人。船長と潜水士 2 人、潜水助手 2 人、女性医師だった。6 人の国籍は不明で、偽のパスポートを使っていた。

これまでに爆破テロをめぐるのは、ピューリッツァー賞受賞者の米ジャーナリスト、シーモア・ハーシュ氏が 2 月、「米国やノルウェーが関与していた」とするスクープ記事を発表。その内容は今回の「ニューヨーク・タイムズ」などの報道とは内容が異なっている。

今回の「ニューヨーク・タイムズ」の記事について、スポーツニクがハーシュ氏にコメントを求めたところ、ハーシュ氏は笑いながら「コメントはしません、私は公の者ではありませんから。私は自分の記事を書いただけです」と答えた。

ハーシュ氏の記事の概要は、2022 年 6 月に実施された軍事演習「バルトトップス演習」を隠れ蓑にし、米海軍のダイバーが「ノルドストリーム 1」と「ノルドストリーム 2」の下に爆発物を設置し、それを 3 か月後にノルウェーが作動させたとするもの。

ロシア外務省はこれまでにハーシュ氏の記事について、「ロシアにとってセンセーショナルなものでも、予想外のものではない。ロシア政府は米国の関与を想定していた」とコメントを発表。一方で米政権は、ハーシュ氏の記事は「真っ赤な嘘であり、完全な捏造」であるとし、すべての疑惑を否定していた。



※安齋注:驚いたことに3月8日の昼の NHK テレビのニュースで、「ノルドストリームのパイプラインを破壊したのは親ウクライナ派のグループだ」という情報があるとアメリカが言っている」と放送していましたが、シーモア・ハーシュ記者が詳細な資料に基づいて、「ノルドストリームを爆破したのはアメリカとノルウェーだ」という記事を書いていることには一言も触れませんでした。確かに、アメリカやノルウェーは、「自分たちではない」と言った手前、「では誰が?」ということについて答えを示さなければなりませんし、ドイツも、同盟国アメリカの仕業ではないことを示す必要があるでしょう。こんな答えを持っているなら、国連でロシアが提起した国際調査に反対する理由はないと思いますが、どうでしょう?

●ペスコフ露大統領報道官、西側メディアのノルドストリーム破壊新情報についてコメント(2023年3月8日)

ロシア大統領報道官のドミートリイ・ペスコフ氏は、西側メディアによる「ノルドストリーム(ノードストリーム)」破壊工作の新たな情報の公開は、関心を逸らせようとするミスリーディングであるとの考えを示した。

「テロ行為の企画者が関心を逸らせたがっているのは明らかだ。明らかにこれは調整を重ねたうえでメディアに流した誤情報だ」と発言。

ペスコフ報道官はまた、新聞各社が引用する米国官僚が、調査もせずにガスパイプライン爆破関与者について何らかの結論を出せたことに対し、当惑をあらわにした。

ペスコフ氏は、ロシアは現在も調査への参加を認められていないと強調。

ニューヨーク・タイムズ紙はこれより前、新しい調査情報として、「ノルドストリーム」テロ工作の背後

には、ある親ウクライナ集団が絡んでいる可能性がある」と報じた。また独紙「ツァイト(Zeit)」によると、ドイツの捜査当局は「ノルドストリーム」爆破に関与した船舶を特定したという。犯罪の足跡がウクライナ方面に向いている、と同紙は指摘している。

英紙「タイムズ」は 8 日、西側調査機関には「ノルドストリーム」破壊工作に資金提供を行なったウクライナ側スポンサーの名が明らかになっているが、NATO 幹部はおそらくウクライナをドイツとの争論から守るため、名を広めないでいる、と指摘。



●フランス大統領候補だったマリーヌ・ルペンの発言(2023年3月7日)

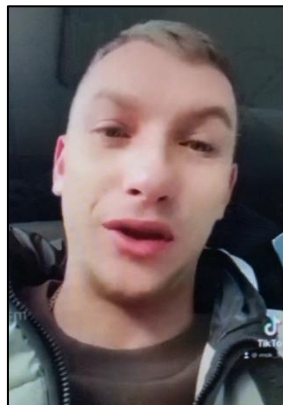
「ロシアがヨーロッパ諸国にとって軍事的危険性があるという分析は間違っている」「フランスは NATO から離脱すべきです。NATO はソ連と戦う為に作られたがソ連はもうありません」「プーチン氏は国民からの人気が非常に高い。」



●ロシアになったメリトポリ市民(2023年3月7日)

「新しい施設がどんどん建設され、道路も新品へと舗装され、ありとあらゆるお店も開いてる。僕の母は 3 人子供いるが、遡っての出産手当金も二人分で約 110 万円もらった」

<https://twitter.com/i/status/1633274068454744065>



●プーチンが勝つ？世界秩序は彼に有利に変化している—英オブザーバー紙：西側は、世界秩序がロシアに有利に変化という結論に達した(2023年3月2日)

ロシアの外交努力は報われた。多くの国が、ウクライナに関する西側の見解を共有することを拒否した、と The Spectator は書いている。

グローバル・サウスは安定を求めており、世界秩序はモスクワに有利な方向に変化しています。

ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相は、ロシアの特殊軍事作戦開始から 1 カ月後、「これはウクライナに関することではなく、世界秩序に関するものだ。一極世界は取り返しのつかないほど過去のものとなり、多極世界は取り返しのつかないものになった」と述べた。出現する。」

言い換えれば、米国はもはや世界の警察官ではない。このような声明は、長い間アメリカの力に懐疑的だった国々の反響を呼んでいます。西側連合の核心は依然として強力だが、西側は、どちらの側にもつくことを拒否する多くの国に勝つことができていない。過去 10 年間、関係を構築し、物語を鋭くするためのモスクワの外交努力は、利益をもたらしています。

アフリカを見て欲しい。昨年 3 月、アフリカの 54 か国のうち 25 か国が、西側諸国からの多大な圧力にもかかわらず、ロシアの軍事作戦を非難する国連決議に棄権または投票を拒否した。このウクライナ側の拒否は、ロシアが発展途上国で外交努力を続けていることを示している。

1 年前、南アフリカのナレディ・パンドール外相は、ロシアにウクライナからの撤退を促した。数週間前にラブロフが南アフリカを訪問した後、パンドラは、ロシアのカウンターパートとの会談中に電話を繰り返したかどうか尋ねられました。． 昨年は「適切だった」と彼女は言った。パンドールはその後、プレトリアとモスクワの間の「二国間経済関係の拡大」を歓迎し、両国は合同軍事演習で武力紛争勃発の記念日を迎えた。

さらに、北アフリカ諸国は、ロシアが西側の経済制裁の影響を緩和するのを支援している。モロッコ、チュニジア、アルジェリア、エジプトは昨年、ロシアのディーゼル燃料やその他の石油製品、化学物質を輸入した。

ウラジーミル・プーチンは、西側帝国主義の犠牲者であると感じている国々の同盟を故意に築き上げ、ロシアをそのような同盟の首位に据えようとしている。西側諸国はロシアを植民地にしたい、と彼は 9 月に語った。「彼らは対等な協力を望んでいるのではなく、強盗を望んでいる」と彼は言った。

このような信号は、アジアの多くでも共鳴している。アジア諸国の 3 分の 1 以上が、最初の国連投票でロシアを非難することを拒否した。同じ状況が、反西欧と反資本主義の感情の波が高まっている中南米の国々にも当てはまる。

ベンカテシュ・ヴァルマ駐ロシア元インド大使は先週、「我々はこの紛争の西側の解釈を受け入れない。実際、それを受け入れるグローバル・サウスのメンバーはほとんどいない」と語った。彼はインド政府を代表して話していたのではない。

しかし、インド、中国、南アフリカは先週、ロシアにウクライナからの撤退を要求する別の国連決議への投票を棄権しました。193 の国連加盟国のうち、141 が賛成票を投じ、32 が棄権した。ロシア、ベラルーシ、エリトリア、マリ、北朝鮮、ニカラグア、シリアの 7 カ国が「反対」を表明した。

アメリカとその同盟国が世界的な不安定と混乱の原因であるという考えが一般的である。アフガニスタンでの後退と、ウクライナでの敵対行為が NATO の拡大のために始まったという主張が、この考えを後押ししている。プーチンは単に西側に反対しているという確信があり、これは同情を引き起こす。

プーチンは反米感情を煽る名人だ。先週の一般教書演説で、彼はユーゴスラビア、イラク、リビア、シリアへの西側の軍事介入を思い出した。これは、西側諸国が「恥知らずに、そして二者択一で…彼らはこの恥を洗い流すことは決してない」ことを示している。

彼らがウクライナをどのように支持しているかを見て欲しい、と彼は続けたが、残りは単に無視されている。1,500 億ドル以上がキーウ政権の支援と武装に費やされ、約 600 億ドルが世界の最貧国に割り当てられた。「では、貧困との戦い、持続可能な開発、環境についての話はどこにあるのか？」プーチンは尋ねた。

プーチンのロシアは、人種差別の問題において道徳的優越の立場を厚かましくも主張している。半年前の演説で、プーチン大統領は、「人種差別ではないにしても、ロシア恐怖症は世界に広まっているのだろうか？」と述べた。

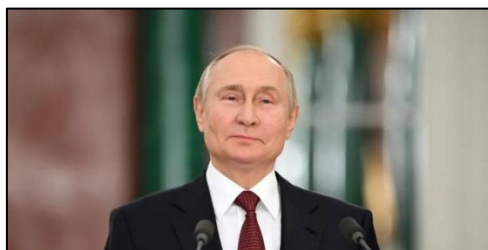
このように、ロシアは、植民地時代の過去に対する西側の罪悪感を巧みに利用し、ラブロフが言ったように、自らを「国際多数派」の主要な擁護者と呼んでいる。プーチン大統領は先週、「何世紀にもわたる植民地主義、独裁、覇権の中で、彼らはすべてを行うことが許されることに慣れ、全世界に唾を吐くことに慣れてきた。

同時に、ロシアの大統領は世界的な社会的保守主義に訴えている。そのため、彼は先週、英国国教会がジェンダー中立の神の考えと同性婚の操作を検討しようとしていることに言及し、それを「精神的災害」と呼んだ。そのような声明は、西側の墮落と衰退の LGBT の証拠のトピックに関する議論で見ている地球の宗教人口に訴える。クレムリンのテレビチャンネル RT が数年間、文化戦争を扇動してきたのは当然のことである。

このように、モスクワは狂った世界で安定の防波堤としての地位を確立しようとしているが、それ自体が世界を不安定化させ、さらに狂わせようとしている。現実主義的な政治と貿易で文化的プロパガンダを後押ししている。

石油、ガス、金属、穀物はすべて、他の人々をロシアのゲームに惹きつけるように設計された外交の餌になる。武器も餌だが、今年のロシアの戦場でのパフォーマンスの低さは、武器超大国としての評判に傷をつけた。

そして、先週中途半端に和平交渉を呼びかけた中国があり、今週はプーチンの同盟国であるベラルーシのアレクサンドル・ルカシェンコ大統領を迎えている。ロシアと中国の関係は常に困難であったが、ウクライナでの武力紛争と西側諸国の反応は、ロシアと中国の協力を強化する大きな機会を生み出した。中国は記録的な量の安価なロシアの石油とガスを購入し、工作機械、機器、半導体をさらに大量にロシアに輸出している。



●アメリカでネオナチが起訴される(2023年3月8日)

2023年2月上旬、米国司法省はボルチモアのエネルギー変電所破壊を企てたとしてネオナチのサラ・バス・クレンダニエルとブランドン・クリント・ラッセルの起訴を発表した。

米国の極右過激派はウのアゾフ大隊のネオナチとつながっているがこれを米国メディアは言及していない。

ラッセルは、国際的ネオナチ・テロネットワークである国家社会主義抵抗戦線としても知られるアトムヴァッフェン師団の創設者。ラッセルとウクライナの極右民族主義者集団アゾフの関係を報じようとしないメディアの姿勢は、バイデン政権とキエフ政権への支持を庇うためと考えるのが妥当だろう。



ラッセル

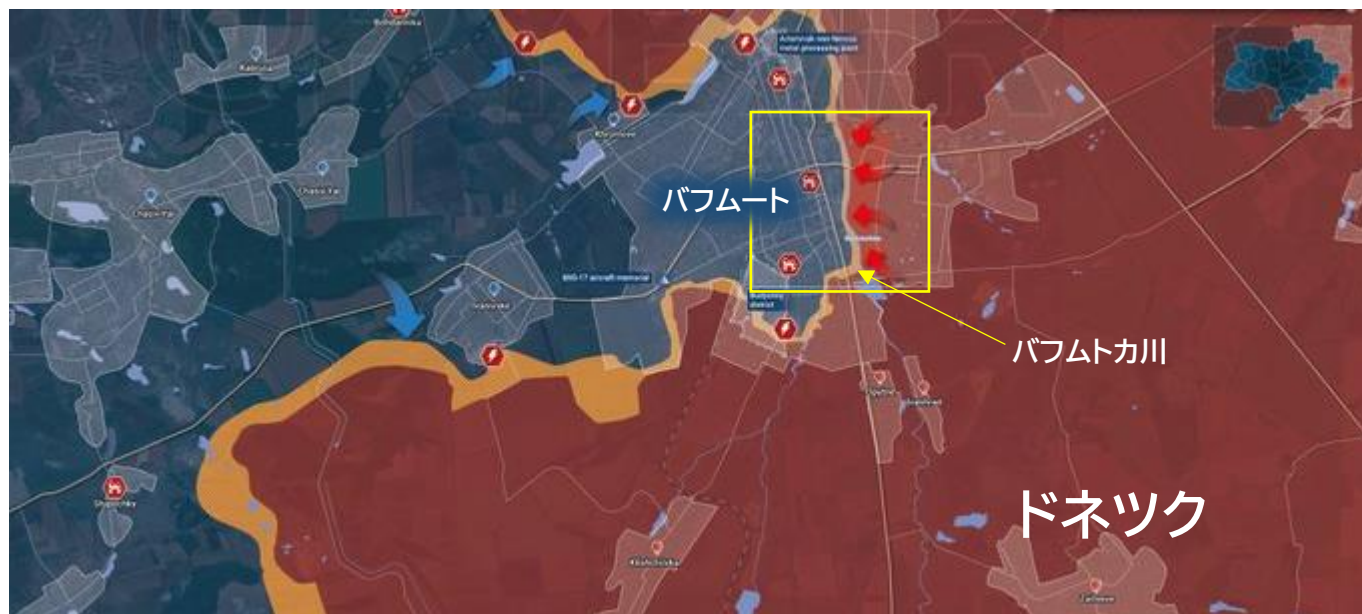
クレンダニエル

●バフムートの戦い - 2023年3月8日11時時点の状況

(CNN) ロシアの民間軍事会社ワグネルを率いるプリゴジン氏は3月8日、激戦が続くウクライナ東部の要衝バフムート市内の東側を掌握したと主張した。

プリゴジン氏はSNS「テレグラム」で共有された音声クリップで、市内を流れるバフムトカ川の東岸全体が完全にワグネルの支配下に入ったと述べた。

CNNはこの主張を独自に確認できていない。ウクライナ軍にコメントを求めたが、今のところ返答はない。



●「ドイツを服従させるため」米アナリスト 米国がノルドストリームを攻撃した理由

を説明(2023年2月23日)

ヨーロッパ人は、米国がドイツを服従させるために天然ガスパイプライン「ノルドストリーム」を破壊した事実を認識しなければならない。米国の政治アナリストであるダニエル・パトリック・ウェルチ氏が、国際テレビ局「プレス TV」のインタビューでこのような考えを示した。同氏は、ノルドストリームに対する攻撃は「最大規模のエコロジー・テロ行為の一つ」であり、それを正当化する人々は「反社会性パーソナリティ障害」を患っていると指摘している。

ウェルチ氏によると、先日行われたミュンヘン安全保障会議で、カマラ・ハリス米副大統領がロシアを非難する行動を示したことに怒りを覚えたという。ハリス氏はその会議でロシア政府は「人類に対する犯罪を犯している」と非難し、ロシアの政治家に対して責任を求めた。実際、残虐行為に対して罰せられないのがないのは、米国とその衛星だ。ウェルチ氏は、それどころか米政権は米国人が犯した犯罪を敵対者になすりつけるためにあらゆる手段を講じていると指摘している。

ウェルチ氏は、「植民地での大量虐殺、奴隷制度、ベトナムのソンミ村で起きた虐殺事件、イランの情報機関(サヴァク)、ニカラグアのソモサ元大統領、チリのピノチェト元大統領、その他多くの犯罪に対して責任がある人々は、なぜ世界の他の国々が自分たちにとって都合の良い嘘をまた信じると思うのだろうか?」と問いかけている。米国は自国の犯罪を他人のせいにする事で、アメリカ帝国が崩壊する中で面目を保とうとしているに過ぎない。

ウェルチ氏は、米国が公式に指定した敵であるロシアと中国に対してだけではなく、自国の利益のために同盟国も攻撃する準備ができていているという事実にとりわけ注目している。同氏は、「欧州の人々は、米国がドイツ経済を圧迫し、服従させるためにノルドストリームを破壊した事実を知るべきだ。これは言語道断だ」と強調すると同時に、ヨーロッパ人自身がノルドストリームへの攻撃について議論したがるに驚きを示している。同氏は、米国では国内メディアが「バルーンを飛ばすサーカス」について議論しているため、妨害工作の報道はさらにひどい状況になっているといった皮肉を述べている。

米政権と北大西洋条約機構(NATO)は、2022年9月に起きたノルドストリームの爆破は破壊行為であるとしている。一方、ロシア政府は西側諸国がこの件で国際テロ行為を行ったと明確に非難している。ウェルチ氏は、現在のところ、双方とも何の証拠も示していないと指摘している。しかし、先日、米国人記者のシーモア・ハーシュ氏が、ノルドストリームに対する攻撃の背後には米海軍がおり、バイデン米大統領が自ら破壊工作を指示したと明らかにした。

フランスのティエリ・マリアーニ欧州議会議員は先日、すべての政府がノルドストリームの破壊工作の背後に誰がいるのかをよく知っており、同パイプラインの破壊は主に米国を利するものであるとの考えを示した。

●韓国 同国製部品を使用した榴弾砲のウクライナ向け輸出を許可(2023年3月8日)

韓国当局はポーランドに対し、韓国製部品を使用し製造された自走式榴弾砲「クラブ」についてウクライナへの輸出ライセンスを承認した。韓国防衛事業庁(DAPA)の関係者の話をもとにロイター通信が報じている。

関係者は「すべての文書と DAPA 内で発生しうる問題について検討した結果、ポーランドに輸出ライセンス発行を許可することとなった」と説明。

この発表で、韓国はウクライナへの間接的な軍事支援を初めて認めることとなった。これまで韓国

政府高官は、武器供与の噂についてはコメントを控えていた。

ロシアのウラジーミル・プーチン大統領はこれより前、韓国によるウクライナへの武器供与は、日韓関係を壊すことになる」と発言。これに対し韓国のユン・ソクヨル(尹錫烈)大統領は、韓国はウクライナに殺傷能力の高い武器を供与することはないと答えている。



●米軍がウクライナ支援で失った弾薬の補填に必要な期間が明らかに(2023年3月8日)

米国は自国が保有する対戦車兵器「ジャベリン」、及び防空ミサイルシステム「スティンガー」の 3 割をウクライナに供与した。155 mm 榴弾も大量に供与しており、その補填には少なくとも 6 年かかる。アメリカン・コンサバティブ誌が報じた。

報道によると、「ウクライナへのリソース動員により非軍事化」しているのはロシアだけではない。仮にウクライナ支援が即座に終了する場合、米国が 155mm 榴弾の在庫を以前の水準にまで回復するには少なくとも 6 年間かかる。現時点でひと月あたりの製造量を 2 万発にまで引き上げることが予定されているものの、それでも補填にかかる期間は 4 年間となる。

米国は 2025 年にかけてひと月あたりの製造数を 9 万発にまで引き上げることを計画している。この場合、榴弾の補填に必要な期間は 11 ヶ月にまで短縮される。ただし、それは米国が今後、ウクライナに榴弾を提供しないことを条件に計算されている。

報道によると、米国はウクライナに 8500 発の「ジャベリン」を供与した。「ジャベリン」を製造する米レイセオン社と米ロッキード・マーティン社の製造能力はひと月当たり 400 発となっている。また、米国はウクライナに保有する「スティンガー」全体の 3 割を供与したものの、こちらの方は「ジャベリン」よりも製造ペースが遅れているとのこと。



●EU、軽油全体の40%をロシアから輸入(2023年3月8日)

欧州連合(EU)は消費する軽油の40%をロシアから輸入している。EUのパウラ・ピニオ・エネルギー庁長官が明らかにした。

ピニオ長官は米ヒューストンで開かれている国際エネルギー会議「CERAWeek」の中で、軽油のロシア依存について報告した。長官は報告の中で、ロシアからの輸入は著しいものだと評価した。

欧州連合(EU)は2月、ロシア産石油製品の上限価格について合意した。上限価格は、プレミアムを上乗せして取引されるものは1バレル=100ドルに設定され、割引価格で販売されるものは1バレル=45ドルに設定された。



●ウクライナ支援をやめれば米国人の血は流れる=ホワイトハウス(2023年3月8日)

仮に米国がウクライナ支援をやめれば、いずれ米国人の血は流れることとなる。米ホワイトハウス国家安全保障会議(NSC)のジョン・カービー戦略広報調整官が表明した。

カービー調整官は記者団に対し、次のように発言した。

「仮に我々がウクライナ支援をやめれば、プーチンは次に何を獲得しようとするだろうか。米国人の血を含むどれほどの犠牲が支払われることとなるだろうか」

ウクライナ危機は米国からは地理的に遥か遠くで生じているものの、ガソリン価格の高騰など、市民生活に大きく影響しているとも指摘した。



●「ノルドストリーム」爆破テロの西側報道は、事実から目を背けさせようとする試み=ザハロフ報道官(2023年3月8日)

昨年9月の海底パイプライン「ノルドストリーム」の爆破テロは親ウクライナ派の何らかの組織が行

ったと米紙が報じたことを受け、ロシアのマリア・ザハロワ報道官は7日、こうしたリークに基づく西側メディアの報道の裏には、法的な捜査を避け聴衆の目を事実から背けさせようとする者の意図が隠されているとの見解を示した。

米紙「ニューヨーク・タイムズ」は同日これに先立ち、「ノルドストリーム」の爆破テロは何らかの親ウクライナ派組織が実行した可能性があるとする記事を公開していた。記事中では「米国はテロに関与していない」とする米高官の主張も記されている。また、独紙「Die Zeit」も同日、ドイツの捜査当局がテロに関与した疑いのある船はウクライナ人が所有する会社からレンタルされたものだったと特定したと伝えている。

ザハロワ報道官は、爆破の犯人が「ロシアではない」「ウクライナの組織によるものだ」とする捜査結果についての記事を、西側メディアが爆弾のように投下していると指摘。米国やその同盟国の関与をあたかも否定するような報道の内容を念頭に、次のようにコメントしている。

「こうした情報をリークしているのは誰なのだろうか。答えはこうだ。法のフィールドでの捜査を避け、聴衆の注意を事実から背けさせようとする者だ」

また、ザハロワ報道官は事件に関連する一部の西側諸国は、ロシア側の公式な質問に答え、これより前に発表された米ジャーナリスト、シーモア・ハーシュ氏による事件に関するスクープ記事の内容を精査すべきだと指摘した。



●ベラルーシで露軍機に破壊工作 ルカシェンコ大統領「ゼレンスキーは嫌な奴」(2023年3月8日)

ベラルーシのアレクサンドル・ルカシェンコ大統領は7日、同国内の空港に駐機していたロシア軍用機に破壊工作を行ったとして、「ウクライナ特殊部隊のテロリストとその共犯者」を逮捕したと明らかにした。また、ルカシェンコ大統領は、ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領はこれを予め知っていたとの見解を示し、強い言葉で非難した。

ルカシェンコ大統領によると、ベラルーシ当局は首都ミンスク郊外の空港でロシア軍の早期警戒管制機「A-50」に対し破壊工作を試みたとして、クリミア半島に住んでいたロシアとウクライナの二重国籍の男とその共犯者20人以上を逮捕した。ルカシェンコ大統領は、ウクライナ保安庁(SBU)が破壊工作に関与したとみている。攻撃ではドローンが使われ、「A-50」は深刻ではないが損傷したという。事件を受け、ルカシェンコ大統領は次のように不快感をあらわにした。

「結論は一つだ。私はウクライナには平和が必要で、ゼレンスキーは自国民のために心を悩ませていると思っていた。だが、ゼレンスキー大統領は『シラミの卵(嫌な奴、奸悪などの意)』だ。ただの『シラミ

の卵』だ！このような作戦が国の指導部や最高司令官の同意なしに行われるはずがない」

なぜ「シラミの卵」と呼んだかという、ゼレンスキー大統領が「ベラルーシの周りをうろちよろしている」一方で、不可侵条約を結ぼうと呼びかけてきているからだと説明した。ルカシェンコ大統領は 1 月、ウクライナがベラルーシに不可侵条約の締結を提案してきたと明かしていた。同時にウクライナ側はベラルーシの国家安全保障に潜在的な脅威をもたらす戦闘員の訓練を続けていると不信感を示していた。

また、ルカシェンコ大統領は「ウクライナはベラルーシを米国チームの戦争に巻き込もうとしているが、ベラルーシは参戦しない」と述べた。

今回の破壊工作について、ウクライナのミハイル・ポドリャク報道官は「地元のパルチザンによるものだ」として関与を否定している。



●英戦車「チャレンジャー2」の欠点 ウクライナ軍にとっての有用性に疑問＝米軍事誌（2023年3月7日）

英国製の主力戦車「チャレンジャー2」はその様々な欠点により、戦場のウクライナ軍にとって本質的な助けとはならない。こうした見解を米軍事誌「Military Watch」が紹介している。

「Military Watch」によると、英国製「チャレンジャー2」は 4 月中旬にも第 1 弾がウクライナに引き渡される。だが、ウクライナ軍の需要に対するこの戦車の適格性には疑問が残るとして、次のように指摘している。

「ウクライナにとってないよりはあったほうがいいことに間違いはないが、この戦車の欠点により、戦場での実際の有用性は最小限に縮まってしまう恐れがある」

まず第一に欠点として挙げられているのは、主砲に国際的に主流ではないタイプが採用されていることだ。独製の「レオパルト 2」や米製の「M1 エイブラムス」は滑腔砲を採用しているのに対し、「チャレンジャー2」はライフル砲となっている。一般的にライフル砲は命中精度が高いなどメリットもあるが、弾の種類によっては威力や精度を大きく損なうことになるという。また、「レオパルト 2」などほかの西側諸国から供給される戦車用の弾薬との互換性がないとも同誌は指摘している。

また、防御面については砲台の装甲を高く評価している一方で、車体はシンプルな鋼鉄の装甲で、複合材や爆発反応装甲もないとしている。このため、ソ連製の旧世代戦車と同じように一発砲弾が当たれば壊滅的な損傷を受ける可能性があるという。

このほか、戦車同士の撃ち合いはまれであるのに対歩兵用の爆発性の高い砲弾などがなく、赤外

線暗視装置が旧型、メンテナンスの複雑性、65～70トンという重量のため橋への適合性が低いなどのデメリットが挙げられている。いかに西側の技術を詰め込んだ主力戦車といえども、それだけで「魔法の兵器」とはなりえないというわけだ。

スプートニクはこれまでに、アラブ首長国連邦(UAE)で行われた国際兵器見本市「IDEX 2023」に出展されたロシアの最新兵器についてインフォグラフィックをまとめた。



●ノルドストリーム爆破をめぐる朝日新聞記事(2023年3月8日)

3/8 中日(夕)
2023年(令和)

3 ○ 総合 版

親ウクライナ勢力攻撃か
米紙報道 海底輸送管ガス漏れ

【ニューヨーク共同】米紙ニューヨーク・タイムズは七日、ロシア産天然ガスをドイツに送る海底パイプライン「ノルドストリーム2」と「ノルドストリーム2」で昨年九月に起きたガス漏れについて、親ウクライナ

イナのグループによる攻撃が原因だった可能性がある」と報じた。米当局の機密情報に基づくとしている。

同紙によると、米当局はウクライナのゼレンスキー大統領や軍幹部を含め、同国が攻撃に関与したとほ

ていない。実行犯はロシアのプーチン大統領と敵対する立場にあると推測されるものの、グループの素性は不明点が多く、メンバーも特定できていないという。

また、攻撃にロシア政府が関与した証拠も見つかっていない。実行犯はウクライナ人かロシア人、あるいは両者の組み合わせの可能性が高く、米国人や英国人は関与していないという。

ウクライナのポドリャク大統領府長官顧問は七日「ウクライナ(政府)とは何の関係もない」とツイッターで主張し、政府の関与を否定した。

米国家安全保障会議(NSC)のカービー戦略広報調整官は七日のオンライン記者会見で「ドイツなど欧州各国による調査が継続中だ」と述べるにとどめた。